

宮城県仙台二華中学校・高等学校

北上川／東北地方、メコン川／東南アジアをフィールドとした世界の水問題解決への取組

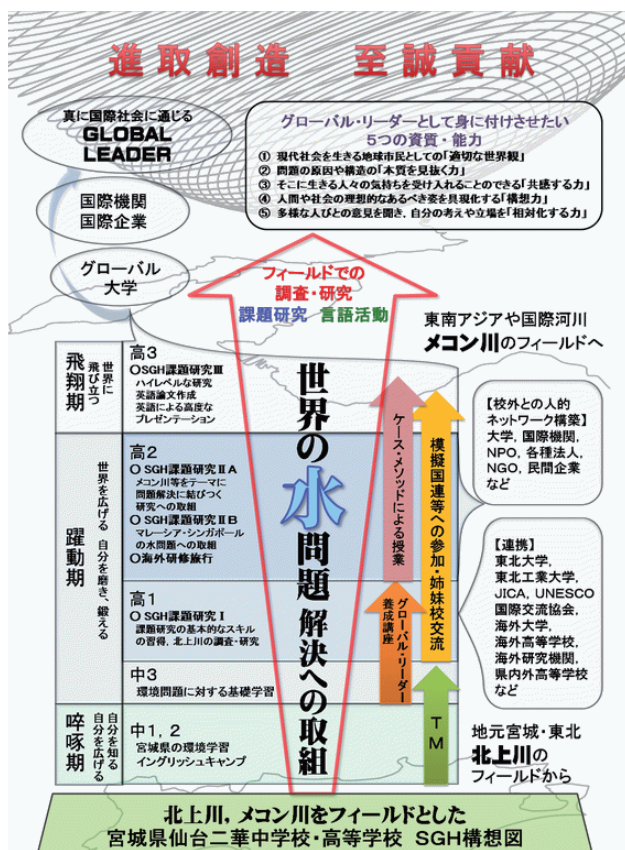
【構想の概要】

年に2回、6～10名の高校生が、東南アジアの農村、漁村、山村を訪問し、現地住民へのインタビューから水問題を発見し、現地の人々が自らの手で解決できる方法を考える一連のプログラム。現在高校2年生44名、3年生14名（年度によって変わる）が5つのプロジェクトに挑んでいる。

本校生徒は、3年間で最大8単位の課題研究という授業を履修することができ、この間に課題研究、フィールドワーク、言語活動が一体となった取り組みによって、「適切な世界観」、「共感する力」など5つの資質・能力を育成することを目標としている。

最も進んでいる雨水グループでは、実際に現地で雨水収集システムを貧困家庭に取り付け、試行錯誤しながら自分たちでお金を出して購入し、維持できるシステム作りを目指している。

SGHの指定が切れる平成31年度以降も外部資金を調達しながらこれまでの活動をほぼ全面的に継続する予定である。



単 位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	合計
躍動期	高1生 一貫生 高校1年	国語総合				世界史A		現代社会		数学Ⅰ 数学Ⅰ	数学A	数学Ⅱ 数学Ⅱ	数学A		数学Ⅱ	物理基礎		生物基礎		保健	体育	音楽Ⅰ 美術Ⅰ 書道Ⅰ		シヨン英語Ⅰ	コミュニケーションⅠ	英語表現Ⅰ		家庭基礎		SGH課題研究Ⅰ SGH課題研究Ⅰ A 社会と情報 自然科学情報		LHR	35			
	高2生 一貫生 高校2年文系	現代文B		古典B		日本史B		地理B		倫理		数学Ⅱ	数学Ⅱ	数学Ⅱ	数学Ⅱ	数学研究α		化学基礎		地学基礎		保健	体育	シヨン英語Ⅱ		コミュニケーションⅠ	英語表現Ⅱ		英語表現Ⅱ		SGH課題研究Ⅱ A 社会と情報 自然科学情報		LHR	35		
	高2生 一貫生 高校2年理系	現代文B		古典B		日本史B		地理B		数学Ⅱ	数学Ⅱ	数学Ⅱ	数学Ⅱ	数学Ⅲ	数学Ⅲ	化学基礎		化学		物理		保健	体育	シヨン英語Ⅱ		コミュニケーションⅠ	英語表現Ⅱ		英語表現Ⅱ		SGH課題研究Ⅱ A 社会と情報 自然科学情報		LHR	35		
飛翔期	高1生 一貫生 高校1年文系	現代文B		古典B		日本史研究 地理研究 倫政研究		数学研究β				生物学活用		化学活用		世界史B				政経		倫政研究		体育		シヨン英語Ⅲ		コミュニケーションⅠ		SGH課題研究 英語表現Ⅱ		LHR	35			
	高2生 一貫生 高校2年理系	現代文B		古典B		日本史研究 地理研究 倫政研究		数学Ⅲ		数学研究γ				物理学活用		地球科学活用		化学				古典Ⅱ 音楽Ⅱ 美術Ⅱ		英語研究 フードデザイン		現代文研究 音楽専門 美術専門		体育		シヨン英語Ⅲ		コミュニケーションⅠ		SGH課題研究 英語表現Ⅱ		LHR

徹底的な現場主義（フィールドワーク）

日本でいくら予備調査をして問題を「発見」していても、現地の人の話を聞くと全然問題と感じていないことが多々あった。そこで、本校では現地で住民に直接インタビューを行うことから始めることにした。

これまでに、フィールドワークを行ったのは、タイ6地域、カンボジア1地域、ラオス1地域、ベトナム1地域の4か国9地域である。主に、山村、農村、漁村をまわって、民家を直接訪問し、家族が抱えている水に関連する問題について1軒につき約1時間半の聞き取り調査を行った。

結核が多い地域でもあることから、「最近病気に罹った人はいますか」という問いから始めるなど、本校フィールドワーク独自のノウハウも生徒と一緒に蓄積し、「課題研究ガイドブック」として冊子にしている。

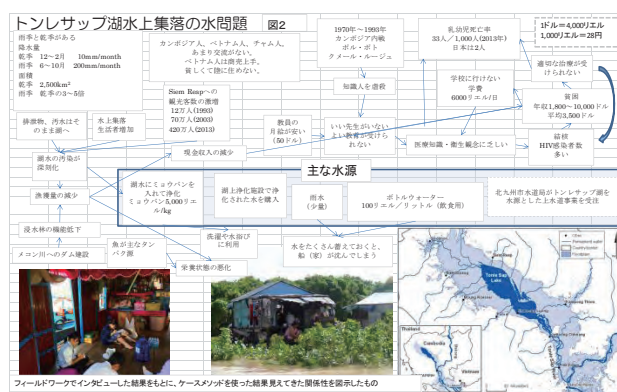
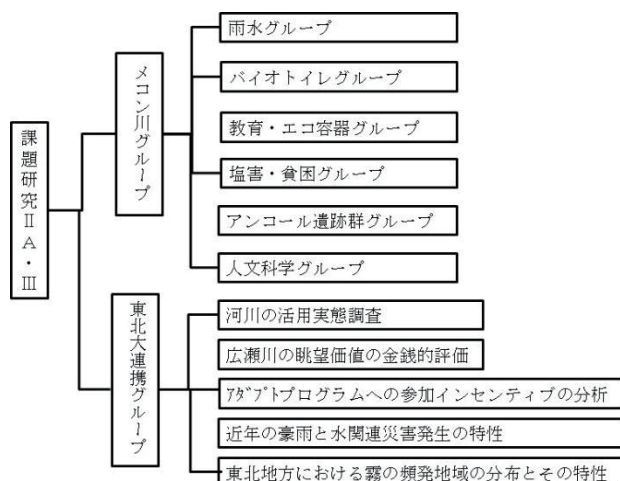


水問題「解決のための」取り組み

本校の課題研究の中心である課題研究ⅡAは、平成30年度44人の選択者がおり、34人のメコン川グループと10人の東北大連携グループに分かれる。

メコン川グループでは、上記訪問地域の中から現在5つの（下の図の上から5つ）問題を解決しようとして取り組んでいる。

各グループでは、現地住民や官公庁、NPOのスタッフからの聞き取り調査及び文献調査をもとに、その問題が生じるプロセスを構造化し、解決策を模索する。



生徒は現地住民のニーズを十分に考慮しながら、住民が自分たちの力だけでその問題が解決できる方法を考える。そして実際に現地で試行させてもらい、半年ごとに訪問するフィールドワークで改良を重ねていく。

下の写真はトンレサップ湖水上集落に雨どいとタンクを設置した様子である。生徒たちは現地で材料を買い求め、現地で工作を行い、実際に数軒の家庭に設置してきた。



成果の発表と普及

水問題は健康や安全に直結するため、常に我々の考えが間違っていないか細心の注意が必要である。

昨年度は2・3年生合わせて66名が10以上の国内外の学会、シンポジウム等で発表する機会を頂いた。ある工学系の学会では、「高校生が誰かのために一生懸命研究する姿を見て、研究の原点を見せてもらった」というお言葉で励ましていただいた。また、水問題はこれから一層深刻化すると予想されているので昨年度は6校の近隣の小中学校に啓蒙活動にも出かけた。

